

「Team Noah HONDA CIVIC TCR」 幸先良く開幕戦を制す



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook に参戦する「Team Noah HONDA CIVIC TCR」は、3 月 19～20 日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催されたシリーズ開幕戦「SUZUKA 5 時間耐久レース」の ST-TCR クラスに参戦。5 時間を大きなトラブルなく走り切り優勝を遂げ、次戦の富士 24 時間につながるレース内容となった。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐にフル参戦。参戦車両はホンダ・シビック TCR で、昨年は念願のクラスチャンピオンを獲得した。今回のドライバーは塚田利郎、蘇武喜和、霜野誠友、和田慎吾の 4 名で臨んだ。ST-TCR クラスは今回 2 台の出走で、全体では 8 つのクラスに 50 台がエントリー。鈴鹿は日本を代表する国際サーキットで、テクニカルな区間と高速区間が盛り込まれたチャレンジングなコース。昨年は 2 位でレースを終えている。

17 日のフリー走行ではエンジンがかからないトラブルが発生したが、ウェットコンディションの 18 日に行われたフリー走行では午後に 40 周を走り込むことができた。19 日朝には曇り時々晴れの中、初めてドライコンディションで走りクラストップタイム、総合 18 番手で手応えを得た。午後の予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、塚田と蘇武のベストタイム合算の結果、総合 18 位、クラスポールポジションを獲得。また霜野、和田も基準タイムを難なくクリアした。

20 日の決勝レースは、11 時 44 分にグリーンシグナルが点灯しスタート。ステアリングを握る和田は序盤に他クラス車両と競っていたスプーンカーブの 1 個目でコースアウトを喫し、大きくタイムロスしクラストップを明け渡すことに。また他車両がクラッシュをしたことで FCY(フルコースイエロー)からセーフティカー導入となったが、このタイミングで総合トップの車両の後方にいたため、クラストップから 1 周近く離されることになった。しかし和田のペースは良く、トップとの差を縮めていくことができた。

和田は 1 時間 40 分ほど、40 周を走りピットイン。ここで塚田に交代した。クラストップの 97 号車シビックはトラブルを抱えて緊急ピットインしたが、すぐにコースへ。しかしまたすぐにスローダウンしたままピットインしてガレージへ入りこのままりタイヤとなった。これで塚田は難なくトップに戻ることができ、安定したペースで周回。約 1 時間 10 分、67 周でピットインして蘇武に交代した。

蘇武はライバル不在となった状態でも次の富士 24 時間の展開を想定した走りを約 1 時間続け、93 周でピットインしアンカーの霜野に交代した。霜野は 98 周目に 2 分 16 秒 916 とこの日のクラス最速ラップをマークしながらも安定した周回を重ね、121 周総合 16 位で ST-TCR クラスのトップチェッカー。昨年最終戦岡山に続き連勝を遂げ、幸先良い 2022 年のスタートを切った。

第 2 戦は、6 月 3～5 日に富士スピードウェイ(静岡県)においてシリーズ最長の 24 時間レースとして開催される。

塚田利郎「走行中に 97 号車がスローダウンしているのを確認できたので、多分トラブルが出たのだと理解しましたが、クルマとタイヤを労りながらの走りに徹し淡々と走りました。木曜日はトラブルで走れなかったのですが、金曜日は雨の中でしっかり走ることができてこれが吉兆だったのかもしれませんが、富士 24 時間でも連勝を目指し頑張ります」

蘇武喜和「今回は路面温度も低く、そこそこのペースをキープしながらもタイヤを労りながら走ることができました。次の富士 24 時間に向けて内容の濃いレースになったと思います。本当は 97 号車との一騎打ちを望んでいたのですが、長いシーズンを考えると油断はできません。富士 24 時間はポイントも大きいですし、また 2018 年大会のように優勝したいと思います」

霜野誠友「クルマのセッティングも決まっていたし、ペース良く決勝レースを走ることができました。金曜日のウェットコンディションでは満タンでのチェックも済ませていましたしタイムも出ていましたので、今日のレースは良い走りができたと思います。次はシリーズを考えると大事な富士 24 時間ですが、また良い走りができるように頑張りたいと思います」

和田慎吾「序盤に他のクラスの車両を抜く際に寄せられスプーンカーブの 1 個目でグラベルに出てしまい、コース復帰に時間がかかってしまいました。さらにセーフティカー導入時に運悪く周回遅れになってしまいましたが、そこから長いスティントで 30 秒詰めることができました。それなりに頑張ってチームに貢献できました。今回は優勝もできましたし自分を褒めてあげたいと思います」